

第36回国民文化祭・わかやま2021
第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会

基 本 構 想

令和元年8月
和歌山県

I 基本的な考え方

1 開催の意義

和歌山県では、万葉の時代から歌に詠まれた美しい自然と、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に代表される高い精神性を有する悠久の歴史に恵まれた環境の下で、個性豊かで魅力ある文化が育まれてきました。

他方、今日、社会がこれまでに類を見ないほど大きく変動する中で、先人から受け継いできた紀の国の文化を見つめ直し、新たな時代にふさわしいものへと発展させていかなければなりません。

そのきっかけとなるのが、「国民文化祭」と「全国障害者芸術・文化祭」です。

和歌山県が誕生して150年を迎える節目の年に、二つの文化祭を同時開催することにより、心豊かで多様な価値観が共生する社会の形成を進め、先人から受け継いできた豊かな文化を新しい時代へと発展させ、継承していきます。

「第36回国民文化祭・わかやま2021」「第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会」は、同じ年の夏に開催される「第45回全国高等学校総合文化祭」とともに、県民一人ひとりが文化活動に参加し、他者への発信や協働を通じて地域社会全体を活性化することで、「元気な和歌山」を実現する大会となることを目指し、次の3つの基本方針を掲げます。

2 基本方針

① 県民総参加で文化力の更なる向上を目指す

県内各地で文化に触れる機会を提供し、県民の文化への興味を刺激します。

県民一人ひとりが主体的に参加し、日頃味わえない喜びや感動を直接体験することで、和歌山県民の文化力が更に向上する祭典を目指します。

② 先人が育んできた文化を継承する

文化遺産や伝承文化等、地域の人々が長い間守り継承してきた文化の魅力を県内外へ発信します。

和歌山県に息づく文化の魅力が多くの人々に伝わり、県民一人ひとりが地域文化の価値や意義、ふるさとへの愛着や誇りを再認識し、先人が育んできた文化を更に未来へと継承していく契機となる祭典を目指します。

③ 交流の中で相互理解と新しい文化の創造を促す

世代や地域の違い、障害の有無などにかかわらず、県内外から多様な人々が集い交流する機会を提供します。

交流の中で、喜びや感動を共有し、相互理解を深めます。

多彩な文化との出会いが新たな文化活動への参加の意欲を呼び起こし、地域文化のさらなる発展や新しい文化の創造へとつながる祭典を目指します。

II 開催概要

1 名称

第36回国民文化祭・わかやま2021
第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会

2 愛称

紀の国わかやま文化祭2021

3 大会キャッチフレーズ

山青し 海青し 文化は輝く

4 会期

2021年10月30日（土）～11月21日（日）23日間

5 会場

- 開会式：和歌山ビッグホエール
- 閉会式：和歌山県民文化会館
- 和歌山県内各地で多彩な文化イベント等を開催

6 主催者

文化庁、厚生労働省、和歌山県、和歌山県実行委員会、県内市町村、文化団体、障害者関係団体 等

7 事業展開の方向

基本方針に沿って、①開会式、②分野別交流事業、③地域文化発信事業、④障害者交流事業、⑤閉会式を展開します。

① 開会式

開会式では、多様で個性豊かな和歌山の文化や歴史を歌や踊りなどで表現するステージプログラムを行います。

世代や地域の違い、障害の有無などにかかわらず、多様な人々が県内外から一堂に会し、個性豊かな和歌山の文化を楽しみながら、みんなで開会を祝います。

② 分野別交流事業

これまでの国民文化祭において、全国の文化団体関わって実施されてきた分野において、全国から出演者や作品を募集し、分野別に公演や展示、展覧会を実施します。

世代や地域を越えて競演し、交流の輪が広がる事業を県内各地で展開していくとともに、これまで積み重ねてきた地道な文化活動を着実に未来へ継承していきます。

③ 地域文化発信事業

和歌山県民の創意とイニシアティブにより、和歌山の特色を十分に発揮し、和歌山の魅力を発信するとともに、県民の文化活動への参加意欲を高め、県内各地で文化力の向上を図ります。

世界遺産、日本遺産や食文化など、和歌山の優れた文化資源をテーマとしたシンポジウムを開催します。また、和歌山県と交流が盛んな国の民族芸能や音楽等の公演を行うなど、世界の文化と交流することで、国際的な相互理解を深めます。

さらに、県内文化団体等がこれまで各地域で培われてきた文化資源を活用し、独自色を打ち出した事業を実施することで、県民のふるさとへの一層の愛着や誇りを育むとともに、地域の活性化や交流拡大につなげ、それぞれの文化の発展や新たな文化の創造を目指します。

④ 障害者交流事業

全国から出演者や作品を募集し、ステージイベントや作品展等、日頃の活動成果の発表の場を提供することで、障害のある人の芸術及び文化活動の活性化を図ります。

また、障害のある人とない人が一緒に参加し交流できる美術や音楽、演劇等の事業を実施し、障害のある人の生活を豊かにするとともに、障害に対する国民の理解と認識を深めることで、障害のある人の自立と社会参加につなげます。

⑤ 閉会式

閉会式では、県内各地で繰り広げられた様々な取組を総括するステージプログラムを展開していきます。

世代や地域の違い、障害の有無などにかかわらず交流した人々が、大会期間中に得られた感動と喜びを分かち合えるステージにします。

さらに、交流や競演の中で育んだ文化を、次回開催県に、そして、「和歌山県ふるさと誕生日」からはじまる151年目の和歌山に引き継いでいきます。

8 シンボルマーク

国民文化祭の統一のシンボルマークとして、第1回（昭和61年、東京開催）から次のデザインが採択されています。



文化は人間の知恵であり、秩序ある生活との結合であります。限りなく広がる文化へのあこがれを、歓喜の人形（かた）の構成でイメージしたデザインです。日本古来の古代紫を基調に、明るさを加えて、新しい日本の未来色のイメージにした色彩計画です。

福田繁雄（グラフィック・デザイナー）

9 マスコットキャラクター

和歌山県のPRキャラクターとして県民に定着している「きいちゃん」をベースに、本大会用にアレンジします。



紀州犬をモチーフにした元気いっぱいのマスコット。体の緑色のマークは、和歌山の頭文字 W と豊かな緑を表現しています。

いろんなことにチャレンジして、たくさんの人と友だちになりたいと思っています。